

**かぜ(感冒)・インフルエンザ等
季節性疾患(入院外)の動向に関するレポート**

平成 24 年 12 月

健康保険組合連合会

IT 推進部データ分析推進グループ

調査分析の目的と対象レセプトについて

本レポートは、かぜ（感冒）、インフルエンザ等の季節性疾患における入院外の動向について、加入者皆様への注意喚起の観点から、平成 23 年度の受診動向と対前年同期比の推移を調査したものです。予防対策や注意喚起など広報誌やホームページ等でご活用頂ければ幸いです。

なお、調査対象は、①かぜ（感冒）、②インフルエンザ、③アレルギー性鼻炎、④ノロウィルスの 4 疾患とし、1) 平成 23 年度の受診動向については、609 組合：13,632,138 名、2) 対前年同期比については同一の 450 組合（加入者増減率：0.29%）一のレセプト・データを使用しています。

【1】平成 23 年度の受診動向の対象レセプト

組合数	加入者数
609 組合	13,632,138 名

【2】対前年同期比の対象レセプト

組合数	H22 年度	H23 年度	増減率
450 組合	10,903,397 名	10,935,168 名	0.29%

【3】平成 23 年度の受診者数と割合

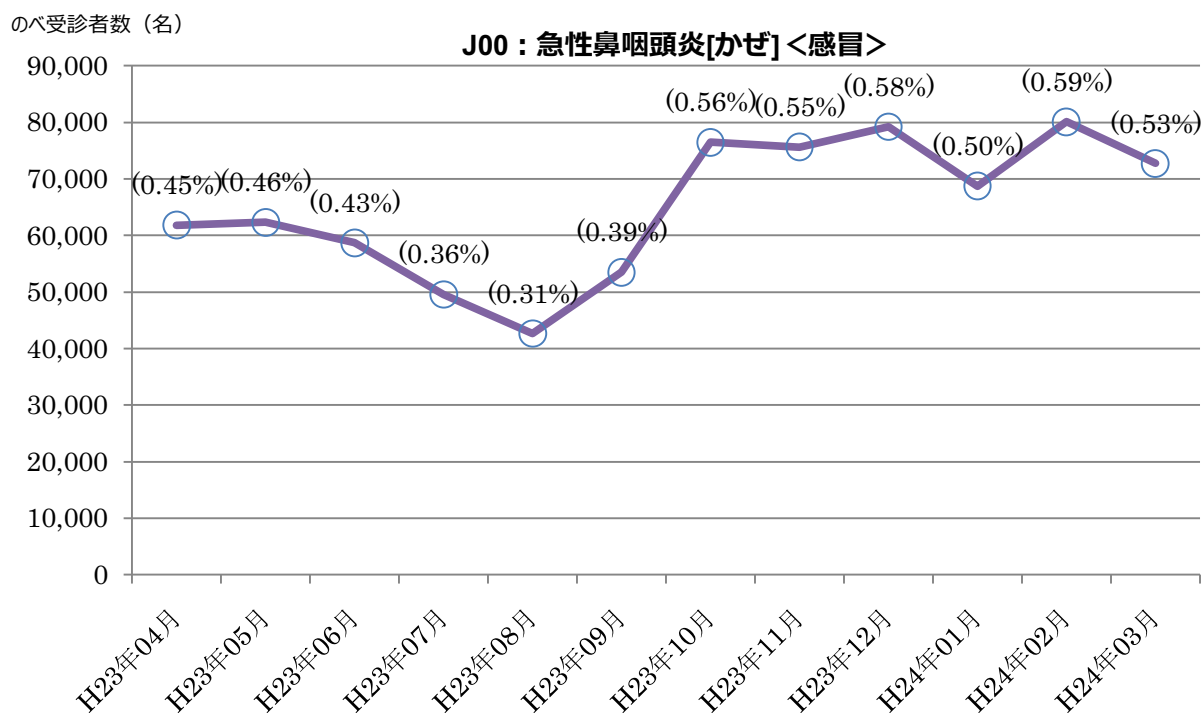
疾病分類	H23 年度受診者 総数（入院外）	加入者数に 占める割合
J00:急性鼻咽頭炎[かぜ]感冒>	519,584 名	3.81%
J10:インフルエンザウイルスが分離されたインフルエンザ	1,018,937 名	7.47%
J11:インフルエンザ, インフルエンザウイルスが分離されないもの		
J30:血管運動性鼻炎及びアレルギー性鼻炎<鼻アレルギー>	1,794,683 名	13.17%
A081:ノーウォーク様ウイルスによる急性胃腸症（ノロウィルス）	2,066 名	0.02%

1. かぜ（感冒）の動向

(1) 受診者数の月次推移

- 平成 23 年度の 609 組合（1,363 万人）のかぜ（感冒）による外来受診者数は約 52 万人で、加入者全体の約 4%を占めている。
- 受診者数の月次推移（図表【1】）をみると、10 月から受診者数が急増し、3 月迄高い水準で推移している。
- 10 月～翌 3 月までの加入者全体（609 組合：1,363 万人）に占める受診者の割合は、0.50～0.59%で推移していることがわかる。
- なお、グラフの J00:急性鼻咽頭炎[かぜ]＜感冒＞には、下記の傷病名(ICD10)が含まれている。

図表【1】 急性鼻咽頭炎〔かぜ〕＜感冒＞による受診者数の月次推移
(カッコ内は加入者数に占める割合)



<J00>

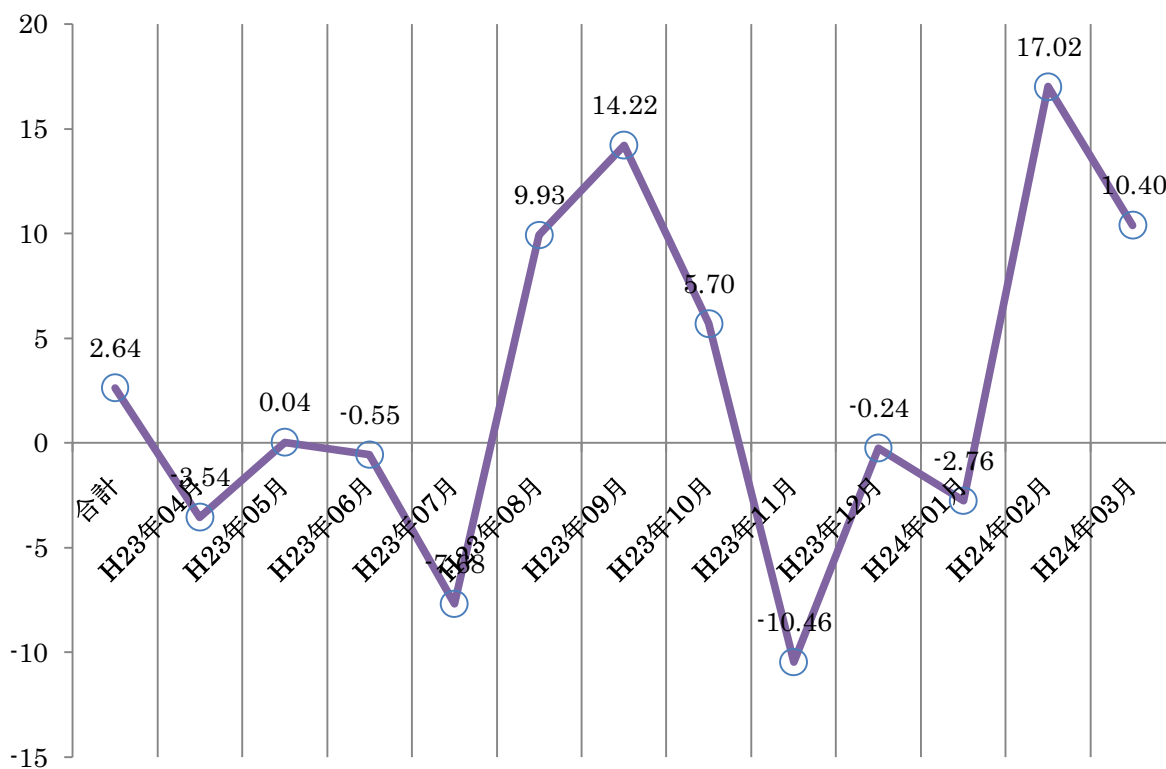
ICD10	傷病名
J00	かぜ
J00	感染性鼻炎
J00	感冒
J00	急性鼻咽頭炎
J00	急性鼻炎

(2) 受診者数の対前年同期比（伸び率）の推移

- 対前年同期比の伸び率（図表【2】）をみると、全体では平成 22 年度に比べ、2.64%の増加となっている。
- 月別にみると、2月が 17.02%と最も高い伸びを示しており、次いで、9月：14.22%、3月：10.40%、8月 9.93%—となっている。

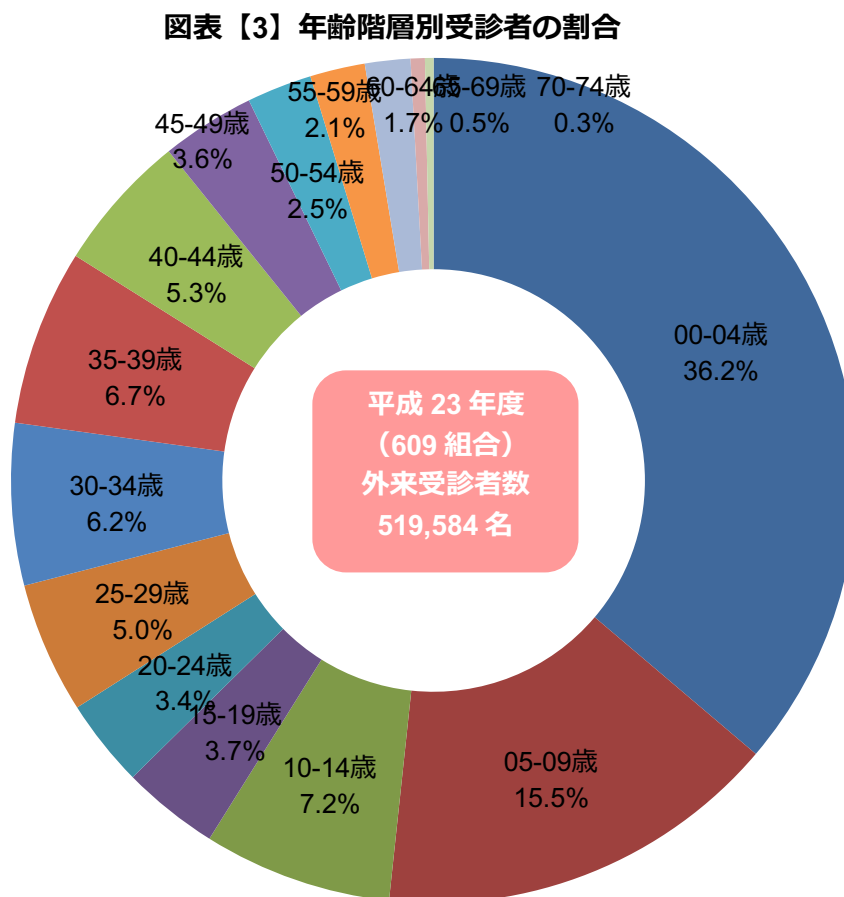
図表【2】 受診者数の対前年同期比（伸び率）の推移（%）

J00:急性鼻咽頭炎[かぜ]＜感冒＞



(3) 年齢階層別に見た受診者の割合

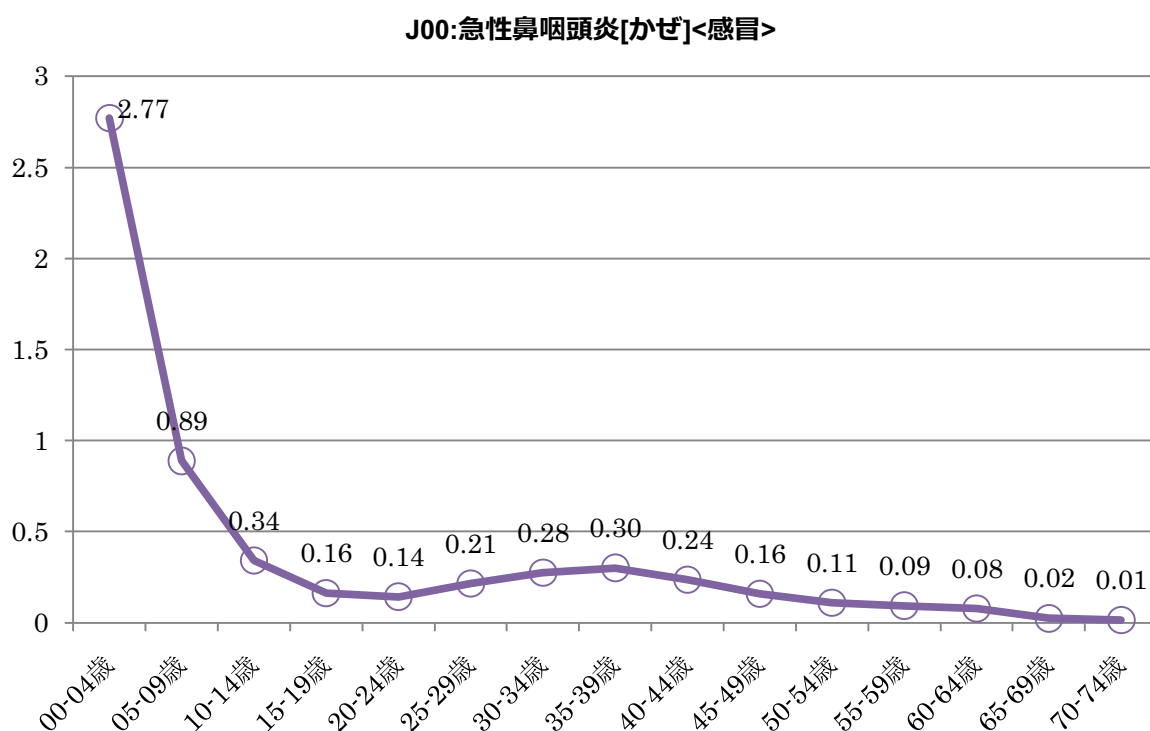
- 年齢階層別（図表【3】）にみると、乳幼児及び就学者層の占める割合が高く、00-04歳：36.2%、05-09歳：15.5%—と00-09歳で全体の約半数を占めている。



(4) 年齢階層別に見た受診率（1人当たり件数）

- 年齢階層別の受診率（図表【4】 ※100人当たり）をみると、乳幼児及び就学者層の受診率が極めて高く、①00-04歳：2.77、②05-09歳：0.89、③10-14歳：0.34—となっているほか、④35-39歳：0.30、⑤30-34歳：0.28—となっている。

図表【4】 年齢階層別受診率（100人当たり）

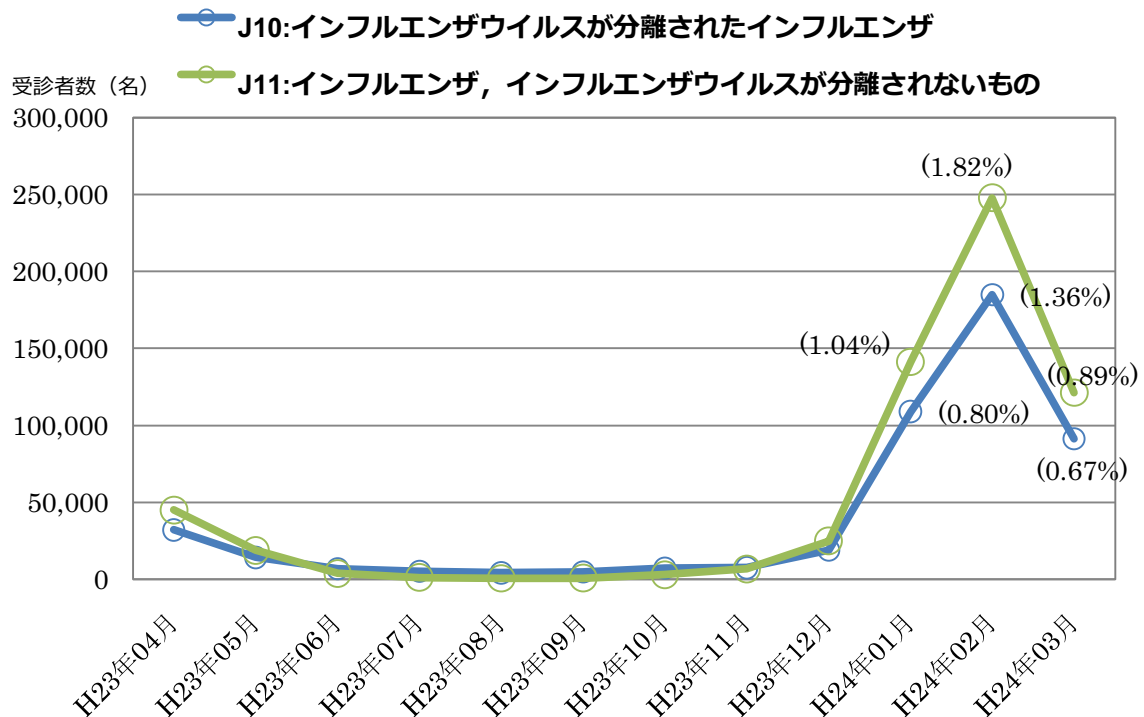


2. インフルエンザの動向

(1) 受診者数の月次推移

- 平成 23 年度の 609 組合（1,363 万人）のインフルエンザによる外来受診者数は約 102 万人（J10、J11 の合計）で、加入者全体の約 8%を占めている。
- 受診者数の月次推移（図表【5】）をみると、全体的には 1 月～3 月の受診者数が多く、とくに 1 月から受診者が急増し、2 月にピークを迎えるが、ピーク時の 2 月は 1 月の約 1.7 倍にあたる突出した数字となっている。
- 加入者数（609 組合：1,363 万人）に占める割合は、■J10 のインフルエンザでは 1 月：0.80%、2 月：1.36%、3 月：0.67%となっている。一方、■J11 のインフルエンザでは、1 月：1.04%、2 月：1.82%、3 月：0.89%—となっており、ピーク時の 2 月は、両者合わせると 3.18%となっている
- なお、グラフで示した、①■J10:インフルエンザウイルスが分離されたインフルエンザ、②■J11 インフルエンザ、インフルエンザウイルスが分離されないもの—は、それぞれ次頁の傷病名（ICD-10）が含まれている。

図表【5】 インフルエンザによる受診者数の月次推移
(カッコ内は加入者数に占める割合)



<J10>

ICD10	傷病名
J101	インフルエンザ（H1N1）2009
J101	インフルエンザAソ連型
J101	インフルエンザA型
J101	インフルエンザA香港型
J101	インフルエンザB型
J101	新型インフルエンザ（H1N1）
J101	鳥インフルエンザ

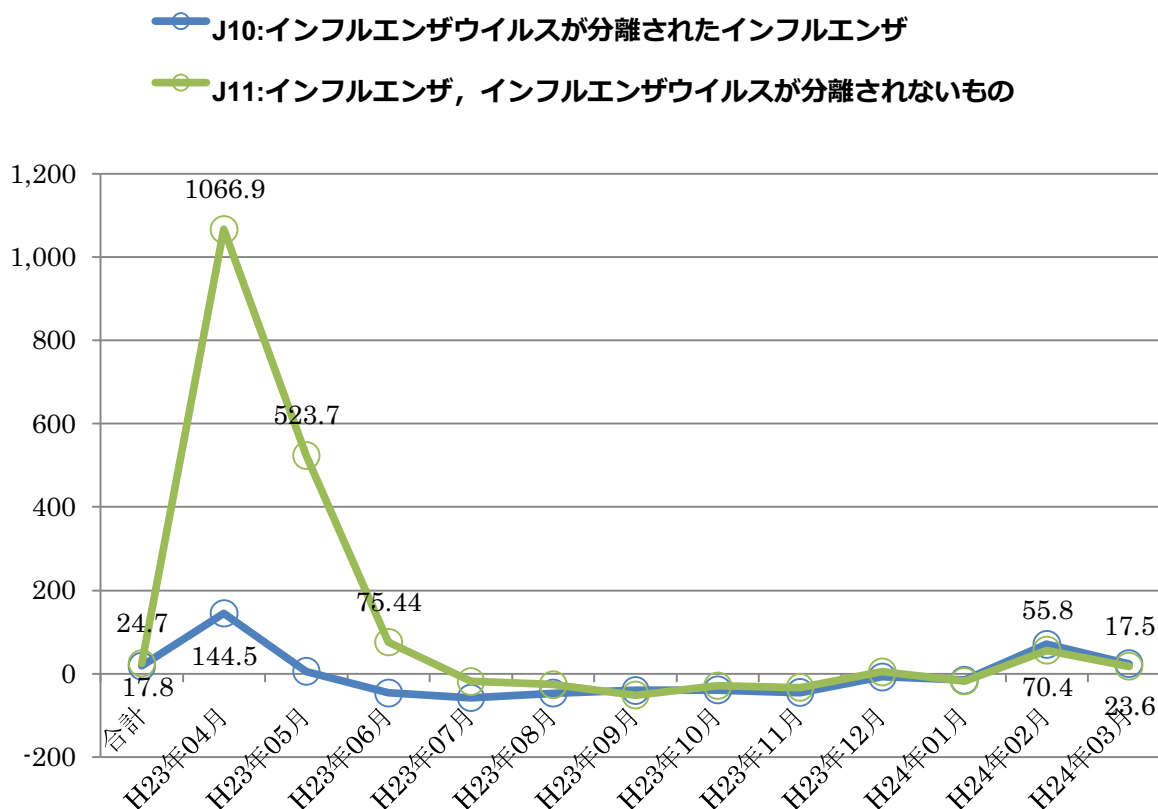
<J11>

ICD10	傷病名
J110	インフルエンザ肺炎
J111	インフルエンザ
J111	インフルエンザ気管支炎
J111	インフルエンザ性咽頭炎
J111	インフルエンザ性急性上気道感染
J111	インフルエンザ性胸水
J111	インフルエンザ性喉頭炎
J111	インフルエンザ性喉頭気管炎
J111	インフルエンザ性副鼻腔炎
J118	インフルエンザ心筋炎
J118	インフルエンザ性胃腸炎
J118	インフルエンザ脊髄炎
J118	インフルエンザ中耳炎
J118	インフルエンザ脳症
J118	インフルエンザ脳脊髄炎
J118	感冒性腹症
J118	急性インフルエンザ心筋炎

(2) 受診者数の対前年同期比（伸び率）の推移

- 受診者数の対前年同期比（図表【6】）をみると、全体では J10：17.8%、J11:24.7%の伸びとなっており、とくに J10-J11 とともに5月に極めて顕著な伸びを示していることが観察される。
- また、例年、受診者数が増加する2月では、J10：55.8%、J11：70.4%の高い伸び率となっている。
- これらを総合すると、23年度では22年度とは異なるウイルス等の流行があったことが示唆される。

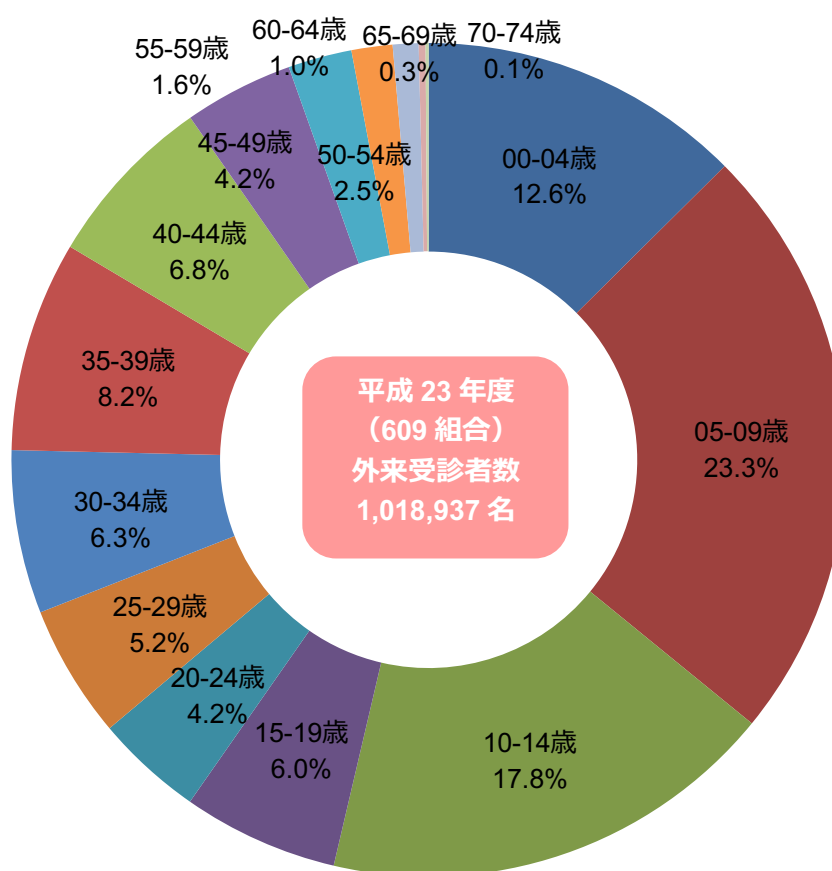
図表【6】 インフルエンザによる受診者の対前年同期比（伸び率）の推移（%）



(3) 年齢階層別に見た受診者の割合

- 年齢階層別（図表【7】）にみると、かぜ（感冒）とは多少異なり、就学者層の割合が最も高く、①05-09歳：23.3%、②10-14歳：17.8%、③00-04歳：12.6%—と00-14歳で全体の半数以上を占めている。

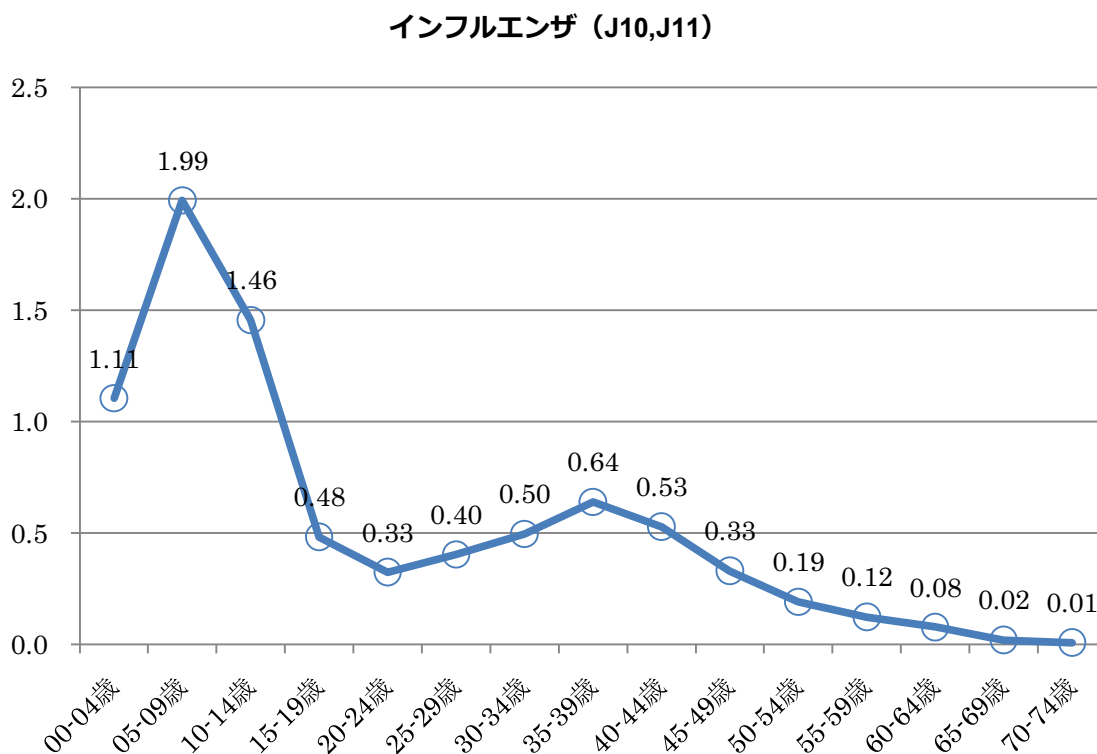
図表【7】 年齢階層別受診者の割合



(4) 年齢階層別に見た受診率（1人当たり件数）

- 年齢階層別の受診率（図表【8】 ※100人当たり）をみると、就学者層の受診率が高く、①04-05歳：1.99、②10-14歳：1.46、③00-04歳—となっているほか、30歳～40歳代でも、④35-39歳：0.64、⑤40-44歳：0.53—と比較的高い傾向が示されている。

図表【8】 年齢階層別受診率（100人当たり）

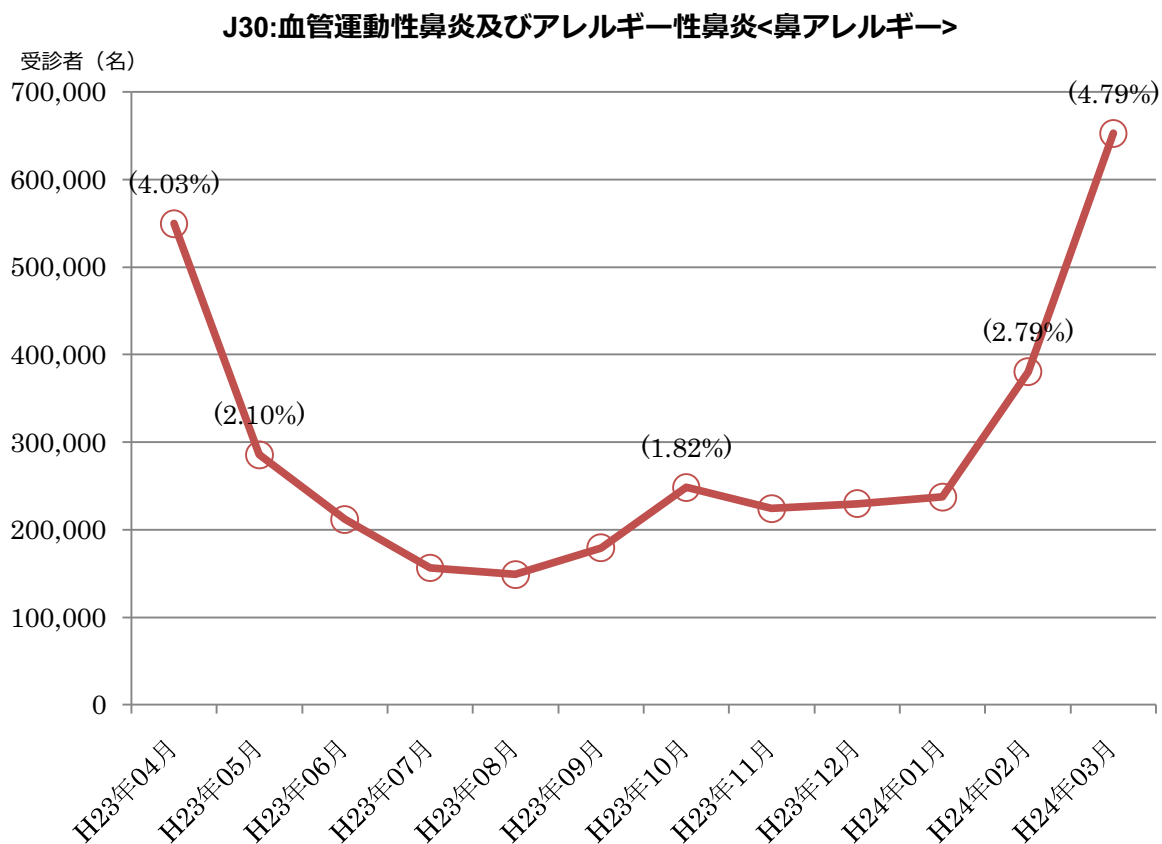


3. アレルギー性鼻炎・花粉症

(1) 受診者数の動向

- 平成 23 年度の 609 組合（1,363 万人）のアレルギー性鼻炎、花粉症による受診者数は約 180 万人で、加入者全体の約 13%を占めている。
- 受診者数の月次推移（図表【9】）をみると、杉花粉が飛散する 3 月、4 月の受診者数が圧倒的に高く、加入者（609 組合：1,363 万人）に占める受診者の割合は、3 月：4.79%、4 月：4.03%と、4%台にのぼることがわかる。
- また、3-4 月以外では、5 月：2.10%、10 月：1.82%、2 月：2.79%と、他の月に比べ比較的高い割合を示している。
- なお、J30：血管運動性鼻炎及びアレルギー性鼻炎<鼻アレルギー>には次頁の傷病名（ICD10）が含まれる。

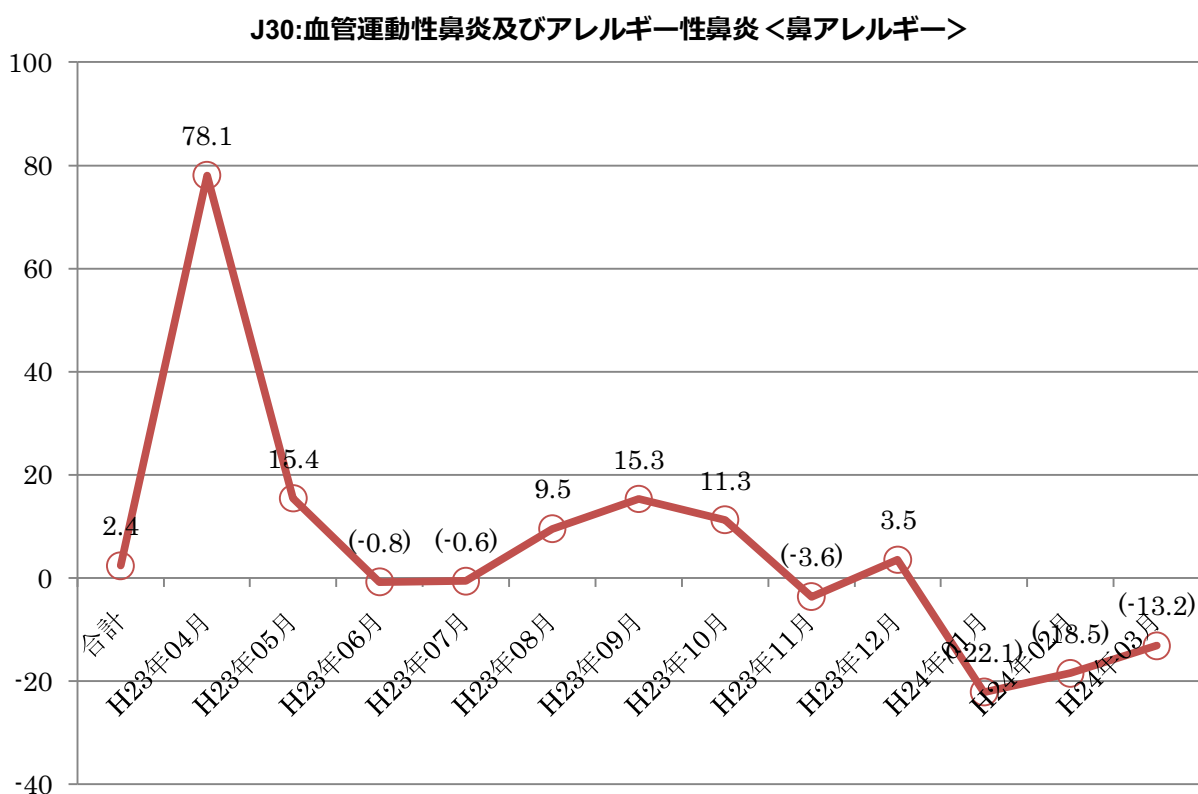
図表【9】 アレルギー性鼻炎による受診者の月次推移
（カッコ内は加入者に占める割合）



(2) 受診者数の対前年同期比（伸び率）の推移

- 対前年同期比の推移（図表【10】）をみると、全体では 2.4%の伸びとなっており、とくに 4 月での伸びが顕著となっていることが示されている。
- また、22 年度に比べ、花粉症の流行する 3 月は△13.2%となっており、1 カ月遅れて 4-5 月に大きく伸びていること、8 月：9.5%、9 月：15.3%、10 月：11.3%と、夏～秋での伸びが観察される。

図表【10】アレルギー性鼻炎による受診者数の対前年同期比（伸び率）の推移（%）



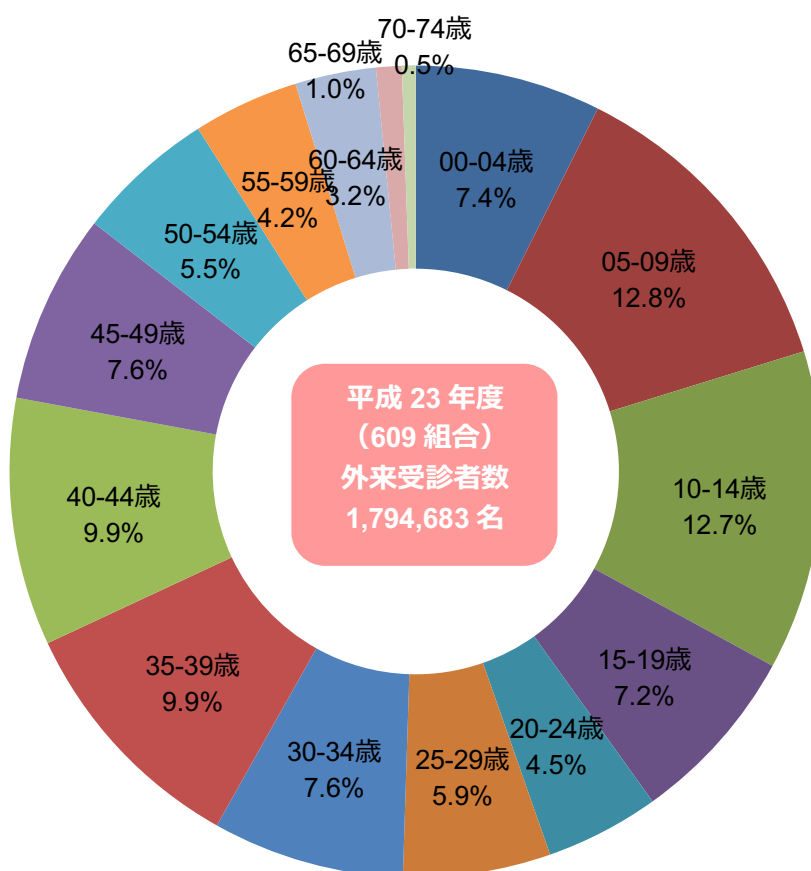
<J30>

ICD10	傷病名	ICD10	傷病名
J300	血管運動性鼻炎	J303	アレルギー性副鼻腔炎
J301	アレルギー性鼻結膜炎	J303	通年性アレルギー性鼻炎
J301	花粉症	J304	アレルギー性鼻咽頭炎
J302	季節性アレルギー性鼻炎	J304	アレルギー性鼻炎

(3) 年齢階層別に見た受診者の割合

- 年齢階層別（図表【11】）にみると、①05-09歳：12.8%、②10-14歳：12.7%と就学者層の割合が高い一方、③35-39歳及び40-44歳：9.9%、④30-34歳及び45-49歳：7.6%—と、30歳～49歳でも比較的高い割合を占めていることがわかる。

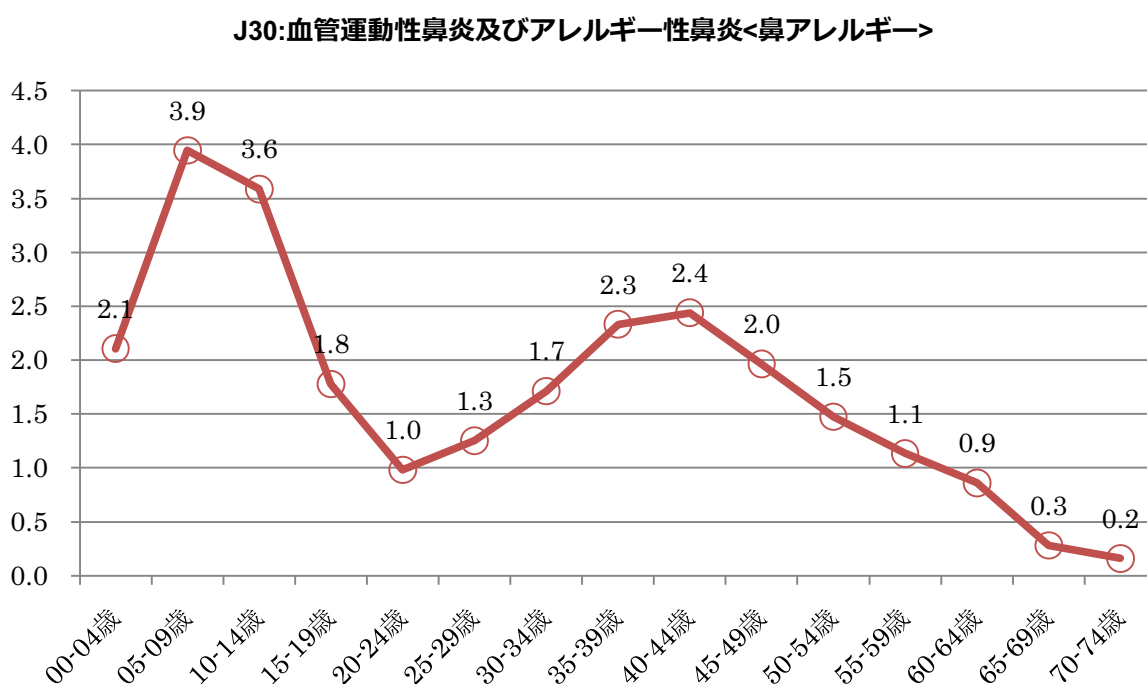
図表【11】 年齢階層別受診者数の割合



(4) 年齢階層別に見た受診率（1人当たり件数）

- 年齢階層別の受診率（図表【12】※100人当たり）をみると、就学者層の受診率が高く、①05-09歳：3.9、②10-14歳：3.6—となっているほか、30歳～40歳代でも、③40-44歳：2.4、④35-39歳：2.3、⑤45-49歳：2.0—と比較的高い傾向が示されている。

図表【12】 年齢階層別受診率（100人当たり）

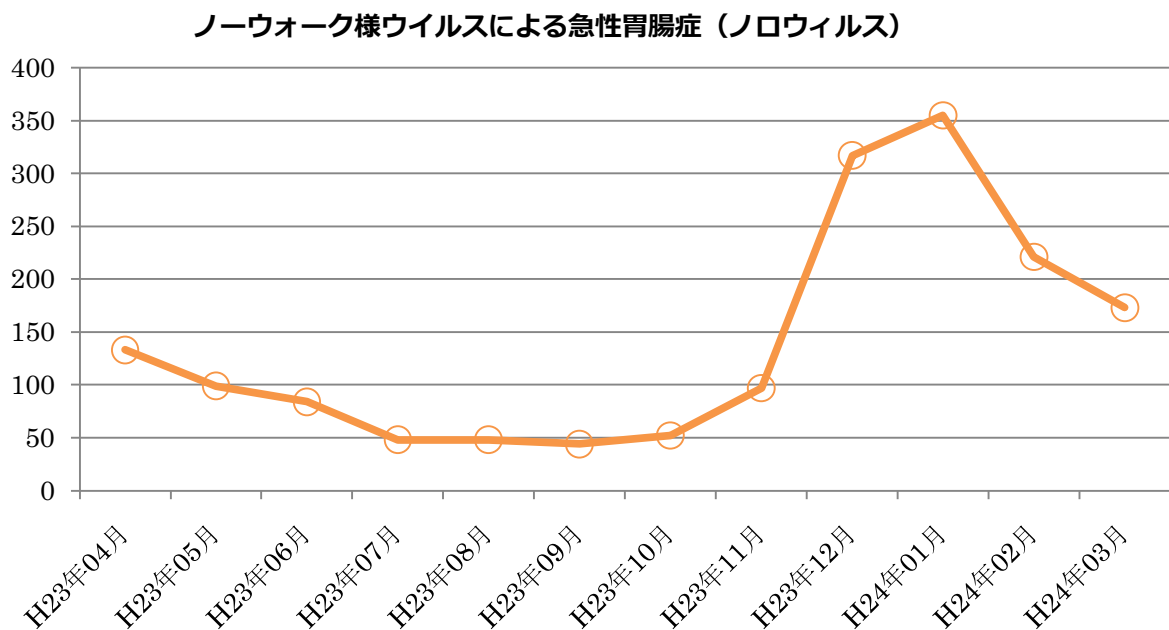


4. ノーウォーク様ウイルスによる急性胃腸症（ノロウイルス）

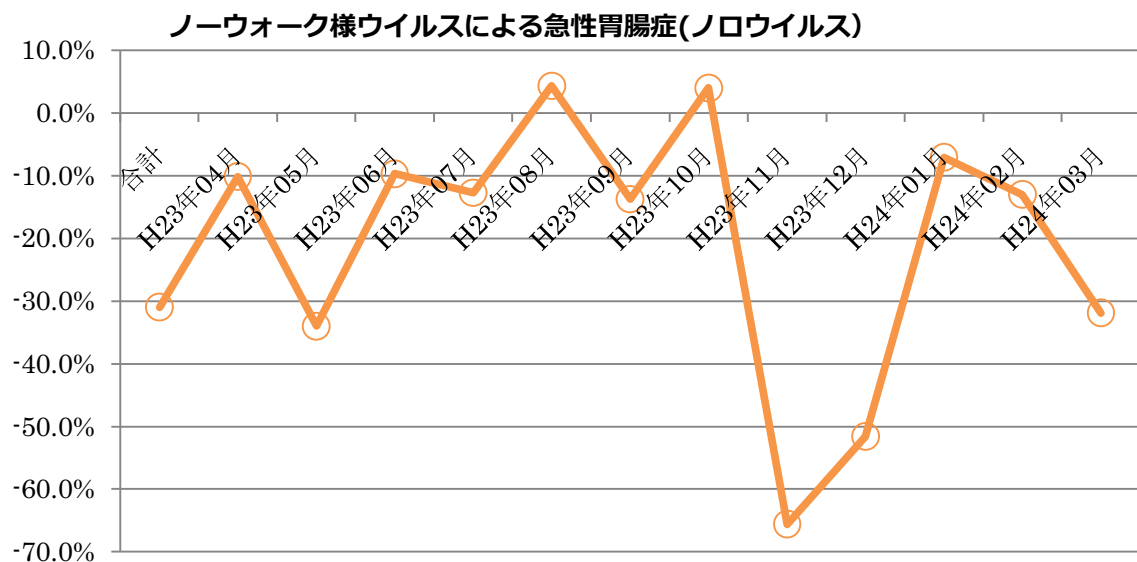
(1) 受診者数の月次推移

- 平成 23 年度の 609 組合（1,363 万人）のノロウイルスによる外来受診者数は 2,066 人で、加入者全体の約 0.02%を占めている。
- 受診者数の月次推移（図表【13】）をみると、12月から1月にかけて受診者が急増していることがわかる。
- ただし、前年同期比（図表【14】）でみると、全体で△31%、月次推移でも8月と10月を除き伸び率はマイナスとなっている。

図表【13】 ノロウイルスによる受診者数の月次推移



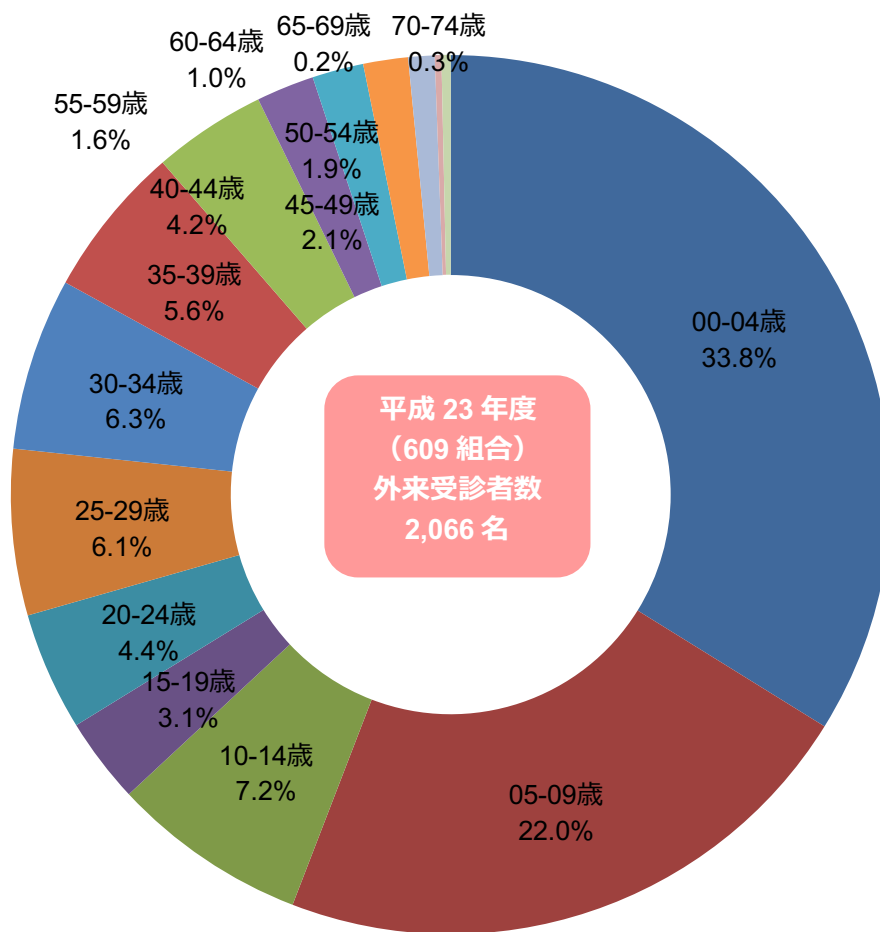
図表【14】 受診者数の対前年同期比（伸び率）の月次推移



(3) 年齢階層別に見た受診者の割合

- 年齢階層別（図表【12】）にみると、乳幼児及び就学者層の占める割合が高く、00-04歳：33.8%、05-09歳：22.0%—と00-09歳で全体の約半数以上を占めている。

図表【15】 年齢階層別受診者数の割合

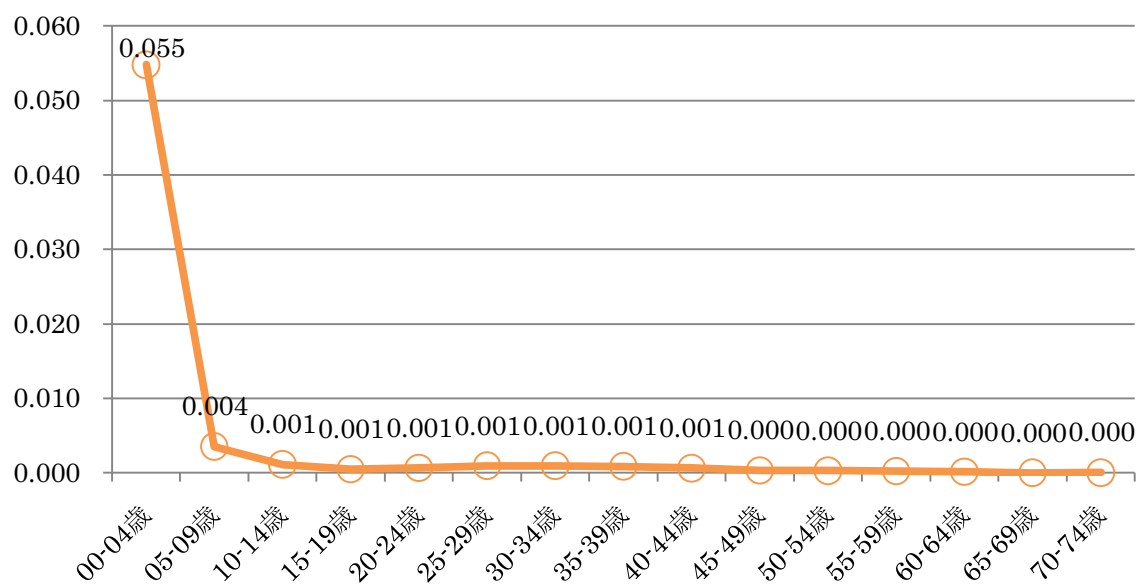


(4) 年齢階層別に見た受診率（1人当たり件数）

- 年齢階層別の受診率（図表【16】※100人当たり）をみると、年齢階層のなかでは乳幼児 00-04 歳の受診率が極めて高く、0.055 となっている。

図表【16】 年齢階層別受診率（100人当たり）：ノロウイルス

ノロウイルスによる急性胃腸症



【担当・照会先】

健康保険組合連合会 IT 推進部 データ分析推進グループ

e-mail : da@kenporen.or.jp